

1学期が終わり、ほっと一息。夏休みは、1学期の子ども理解を見直したり、研修会に参加して教科指導や生徒指導、学級づくりについての見識を広げたりすることができるよい機会です。また、子どもが新たにやる気に満ちて2学期のスタートが切れるように、一人一人の子どもの顔を思い浮かべて夏休み中には、準備をしておきましょう。



<小学校>

休み明けこそ、 一人一人へ温かい声がけを 丁寧に！！

約一ヶ月間の長い夏休みには、生活リズムが乱れたり、体調を崩したり、宿題をためてしまったり、親に叱られたりする子もいます。どの子もいい2学期のスタートが切れるようにするには、教師の温かい声がけが大切です。



登校時 → 笑顔で子どもの登校を迎えましょう。
子どもの変化に気づいたら声がけを。

授業中 → どの子へも声をかけられるチャンス。
子どもの表情をよく観察しましょう。

休み時間 → 子どもと共に遊びましょう。
子どもが先生へ話しやすいときです。

その他 → 日記にはコメントをして早く返し
ましょう。工作や研究のまとめを丁寧
に展示しましょう。

学級づくりに生かす保護者との連携 ～親子レクを通して～

親子レクは、子ども達の楽しみにしている行事です。子どもと保護者と一緒につくりあげ、学級のまとまりを高める機会としましょう！

【保護者をつくる】

子ども達が“楽しめそうなこと”、“楽しめそうな場所”の案を出してもらおう等、計画段階からかかわりをもつようにする。

【子ども達に達成感をもたせる】

子ども達が話し合って計画を立てたり、役割を分担したりすることで、主体的にかかわる場面をつくる。

子ども達の成長を保護者が感じ、保護者同士の親睦も深まることで、学級のまとまりはさらに高まります。



<中学校>

「夏休みの課題が提出できません！」

- A君：2学期初日、登校するもぼーっとして無気力。夏休みの課題達成率20%。
B君：生真面目な性格だが、数学の課題はほとんど手付かず。
Cさん：漢字練習はできたが、作文や歴史新聞は作成できず。

上記生徒に対する指導はさまざまな方法があると思います。でもその前に考えてみてください。

- ・ A君：なぜ無気力？ネット環境は？今後、不登校になる可能性は？
- ・ B君：課題が提出できないことに対する本人自身の受け止めの度合いは？自己肯定感は下がっていないか？
- ・ Cさん：個の能力に応じた事前指導はなされていたか？

「課題が提出できない」ことに対する指導をする際には、確かな生徒理解と、自らの指導力を振り返る姿勢が求められます。

地域の行事に学級で参加してみよう

「学級で何かしたい」「一体感を味わいたい」という生徒の願いをとらえ、地域のお祭りやイベント等に保護者と連携をとって学級で参加してみようでしょうか。

○活動例

- ・ お囃子、太鼓、ダンスなどの表現活動
- ・ マラソン大会などのスポーツ活動
- ・ 出店を出しての販売活動
(主催者への依頼や打合せは生徒が行う)

○期待できる育ち

- ・ 学級で楽しいことを見つけ、目標に向かって活動することで、生徒同士で考えて動く、主体的な活動となり、自己有用感や学級への所属感が高まる。

生徒や学級が普段と変わる場面をとらえ、教師は学級通信などで生徒や保護者へ発信していきましょう。

